2019　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	健康科学講座	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　火曜1限	教室名	402
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナーとして9年間、中高齢者の運動指導を担当。 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー		

《授業科目における学習内容》

高齢者に多い病気の発症メカニズムを理解し、病気の予防、健康寿命を延ばすための方法を習得することができる。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書:健康運動指導士養成講習会テキスト上・下

《授業外における学習方法》

授業で配布した資料を用いて復習を行う。

《履修に当たっての留意点》

日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。
その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。
健康寿命の延伸方法について学び、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康寿命と平均寿命について説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	健康寿命と平均寿命の定義をを理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康寿命の重要性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康寿命重要性について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と健康の関係性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	有酸素運動の効果について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と健康の関係性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	筋力トレーニングの効果について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事と健康の関係性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	食事と健康に関係性を理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事と健康の関係性を説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	栄養素摂取の過不足と病気の関係性について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	生活習慣病の概要を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	メタボリックシンドロームについて説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	メタボリックシンドロームについて理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	循環器疾患について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病・COPD（慢性閉塞性肺疾患）について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	糖尿病・COPD（慢性閉塞性肺疾患）について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ロコモティブシンドロームについて説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	ロコモティブシンドロームについて理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病予防のための運動方法を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	生活習慣病予防の運動方法について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病予防のための食事について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	生活習慣病予防の食事について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康寿命延伸のための方法を説明できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康寿命延伸のために出来ることをグループ内で考える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康寿命延伸のための方法を説明できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	健康寿命延伸のために出来るについて発表する。		

2019　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	健康科学講座	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　火曜3限	教室名	体育室
担当教員	加藤　明英	実務経験とその関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナーとして9年間、中高齢者の運動指導を担当。 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー		

《授業科目における学習内容》

高齢者に多い病気の発症メカニズムを理解し、病気の予防、健康寿命を延ばすための方法を習得する。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%　出席率:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書:健康運動指導士養成講習会テキスト上・下

《授業外における学習方法》

授業で配布した資料を用いて復習を行う。

《履修に当たっての留意点》

日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。
その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。
健康寿命の延伸方法について学び、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動の目的と効果について説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	運動の効果について理解する。 低負荷の運動の目的と効果を理解する。		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	スタティックストレッチの特徴を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	運動療法ついて理解する。 スタティックストレッチの目的と効果を理解する。		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	ダンベルやチューブの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	運動の段階的負荷設定について理解する。 ダンベルやチューブを使用した運動の目的と効果を理解する。		
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングマシンを利用した運動の目的と効果を理解する。		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	トレーニング理論を理解し、説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングの5原則を理解する。 段階的負荷設定を考慮した運動プログラムを作成する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動プログラムの作成と運動指導ができる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	第5回で作成した運動プログラムを基に運動指導を行う。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動プログラムの作成と運動指導ができる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	第6回で実施した運動プログラムを修正したうえで運動指導を行う。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動を継続するための方法を考え、実践できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	運動を継続することによる運動効果について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康ケアトレーナー資格合格レベルまで理解度を高める。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	模擬試験①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康ケアトレーナー資格合格レベルまで理解度を高める。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	模擬試験①の解説		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康ケアトレーナー資格合格レベルまで理解度を高める。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。
		各コマにおける授業予定	模擬試験②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康ケアトレーナー資格試験合格。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	資格試験		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの作成ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの作成方法を理解する。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導方法を理解する。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導方法を理解する。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	人間の尊厳と自立	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　月曜2・3限	教室名	501・502
担当教員	西本　麻衣	実務経験とその関連資格	福祉医療領域にて、障がい者などの支援として実務、相談業務の経験を経て、児童支援に従事。臨床心理士、公認心理師資格		

《授業科目における学習内容》

「人間の尊厳と人権・福祉理念」は人権思想の潮流や関連法律を通じて、「自他の理解とコミュニケーション」は心理学を通じて、「チームマネジメント」は現場をイメージすることで学び、尊厳とは何か、自立とはどういうことかを知ることができます。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験　70%　出席評価点　20%　平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書、参考資料(プリント)

《授業外における学習方法》

他者理解と自己理解は同時に成立します。私らしく生活することの自由と責任は人権として、他者の生き方や個性を大切にすることは尊厳として、日々の生活の中に指標としてある人権意識に気がつくことから始めましょう。

《履修に当たっての留意点》

歴史と法律、心理学、実践(現場)と幅広い内容を授業で取り上げます。板書するだけでなく、よく聞きよく考えながら学ぶ姿勢が大切です。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	私らしさ、障がい、人間の尊厳について知り、考察することができる	テキスト	日常生活にある社会的障壁を見つける
		各コマにおける授業予定	「障害基本法」を学び、共生社会の実現に必要な考え方を知る		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の歴史を学び、人権の今とこれからを考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	自由権と社会権を学び、人権思想の潮流を俯瞰する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の諸規定において日本と世界の動向を知ることができる	テキスト	仏「人権宣言」 米「独立宣言」について映画やドラマで知る
		各コマにおける授業予定	日本国憲法12条、13条、25条、介護保険法、障害者総合支援法を学ぶ		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる	テキスト 参考プリント	ハンセン病について調べる
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる2	テキスト	ハンセン病について調べる
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ2		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界人権宣言以降現代における人権問題について考察できるようになる	テキスト	マイノリティーについて調べる
		各コマにおける授業予定	子ども、貧困、マイノリティーにまつわる社会情勢と人権問題について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利擁護とは何かを学び、考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	社会サービス、制度によって保障されている権利について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利侵害が生じる背景と権利擁護について身近な事例で考え、理解を深めることができる	テキスト	身近にある権利侵害について考える
		各コマにおける授業予定	権利侵害が生じる背景を多面的に捉え、権利擁護の視点を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「自立」とはどのような状態なのかを考え、自分の考えを持てるようになる	テキスト	「自立」という言葉のイメージと自分にとっての自立を考える
		各コマにおける授業予定	「自立」を多面的にとらえる。精神的、身体的、経済的自立について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする人の「自立」を考える。支援のあり方について尊厳の視点から考えられるようになる	テキスト	障がいのある方、高齢者にとっての自立（意思決定）について考える
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立、依存、意思決定をテーマに学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICIDHからICFへの変遷を理解できるようになる	テキスト	テキスト該当ページ（図）を読む
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立を俯瞰的な視点で捉え考える		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自他の理解と関係形成について知識を身につけることができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	自我、自意識、他者への認識についての諸理論を学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学から捉える自分、他者、関係形成について学び、理論を理解できるようになる	テキスト	ノンバーバルコミュニケーション、カウンセリングスキルを1つ実践してみる
		各コマにおける授業予定	認知発達、ライフサイクル理論を学び、自他の理解、関係形成の発達やその不具合について考える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会心理学から捉える自分、他者、関係形成を学び、人間関係について考えられる視点を持つことができる	テキスト	他者の行動アセスメントを実践してみる
		各コマにおける授業予定	対人認知や人間関係について代表的な研究とそこから導き出された理論を学び、考える視点を持つ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションと特性や構造、ケースワークを通じ、自身のコミュニケーションについて知ることができる	テキスト	自身のコミュニケーションパターンを知り、スキルとしてのコミュニケーションを実施してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて概念的な理解を深め、事例検討を通じて実践的に感じ考える		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会の理解Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　木曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	武田　真澄	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員、施設ケアマネを経験後、地域包括支援センターで主任ケアマネジャーとして約6年勤務。現在は居宅介護支援事業所の管理者でケアマネ業務を行っている。社会福祉士・主任介護支援専門員資格		

《授業科目における学習内容》

介護福祉士として必要な法制度、特に社会保障のしくみ、介護保険制度を理解出来るようになる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会と制度の理解2　介護福祉士国家試験過去問

《授業外における学習方法》

授業で習った内容の復習。ニュースや新聞等で福祉施策、高齢者、障害者制度の改正や動向に目を向ける。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として必要な諸制度を実際の現場で応用できるようわかりやすく伝えます。また、覚えなければならない制度の仕組みについてポイントしっかり押さえていきましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習方法や授業の内容、流れについて理解し国家試験にむけて重要ポイントを学ぶことができる。	教科書	自分が生まれてから死ぬまでの必要な社会保障制度についてまとめてみる。
		各コマにおける授業予定	社会と制度の理解についての説明(今後の授業内容)・自己紹介等		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活と仕事にかかわる基本、家族についての定義を説明できる	教科書	自らのライフサイクルをまとめ、ジェノグラムを作成する。
		各コマにおける授業予定	生活の構造～家族とは		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会の意味、集団、組織、市町村合併の歴史を理解する 育児・介護休業法、社会福祉と社会保障の基本を学び、理解することが出来る	教科書	自分が住む地域の居場所、サロンなどどのようなものがあるか調べる。
		各コマにおける授業予定	地域社会と個人～人と社会		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ 社会保障制度にはどのような制度があるのか理解できる	教科書 配布プリント	自分や家族が現在どのような社会保障制度を利用しているのか調べておく。
		各コマにおける授業予定	社会保障の基本的な考え方		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本国憲法のなかの社会保障に関する条文を理解する。加えて第二次世界大戦後から現代にいたる間の社会保障の歴史を学び、理解することができる	教科書 配布プリント	年金制度や医療保険制度、社会福祉制度(児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉)といった社会保障の各制度がどのように改正され変化してきたか整理しておく。
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の発達		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の全体像を理解し、わが国の社会保険の5つの制度について学ぶ。	教科書 配布プリント	社会保障制度が自分たちの生活や人生においてどのような影響があるか考えてみる。年金制度がなかったらどうなるかなど。
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の仕組み		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の給付と負担の関係について理解できる。	教科書 配布プリント	人口減少社会における社会保障制度の課題や対応方法について考えておく。
		各コマにおける授業予定	現代社会と社会保障制度		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保険と社会扶助について繰り返し学び、その種類と内容について答えることができる。	教科書 配布プリント	家族や自分の加入している医療保険について調べておく。
		各コマにおける授業予定	社会保障制度の確認		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険創設の背景について理解する。	教科書 配布プリント	自分の自宅がある市町村の人口、高齢化率について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の目的		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険申請からサービス利用までの流れが理解できる。	教科書 配布プリント	自分の家族が介護が必要になった時の対応や制度について考えてみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス、地域支援事業の種類と内容が理解できる。	教科書 配布プリント	居住する地域にどういうサービス事業所がどのくらいあるか調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国や都道府県、市町村の役割が理解できる。	教科書 配布プリント	自分が住むまちの介護保険事業計画について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度にかかわる組織とその役割		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護の実践に関わる専門職の役割について理解できる。	教科書 配布プリント	自分が目指している介護福祉士の姿を想像し書き出してみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度による専門職の役割～介護保険制度の動向		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度の改正のポイントやこれからの介護保険制度の課題について理解できる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の確認		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障や介護保険制度について振り返りを行い各制度についてきちんと内容を答えることができる。	教科書 配布プリント	重要ポイントを整理し授業内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	今まで履修した内容の確認。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　水曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

利用者理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解できるようになる。介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」が身につく。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけてい きましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「介護」について各自のイメージすることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	教員の自己紹介や、介護に携わってきた背景を伝え、人となりを理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「介護」について各自のイメージすることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	「介護」という言葉の語源、意味を理解する。各個人の持つ介護観を自分の言葉で書き表す。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法が成立するまでの社会的背景を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	老人福祉法に至る、日本の福祉・介護にかかわる制度の変遷について学ぶ。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	専門職による「介護」が誕生した経緯を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	老人福祉法以後、介護の専門職が誕生し、介護福祉士へと変わっていったその変化を学ぶ。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法制定後の介護に関連する施策の概要を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法に至る中での、日本の介護福祉の変化のありようについて理解し、今日の介護について知る。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法制定後の介護に関連する施策の概要を理解し、介護保険法によって規定される介護の範囲を理解できる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法に至る中での、日本の介護福祉の変化のありようについて理解し、今日の介護について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉の基本となる理念を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	尊厳を支える介護、自立支援の意味について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉の基本となる理念を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	尊厳を支える介護、自立支援の意味について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域や施設・在宅における介護福祉士の役割と機能を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムの概要や、介護予防、医療的ケアの概要について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域や施設・在宅における介護福祉士の役割と機能を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	看取り、災害時の介護福祉士の役割と機能について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士および介護福祉士法の概要について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	社会福祉士および介護福祉士法について理解し、その義務規定を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士および介護福祉士法の概要について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	社会福祉士および介護福祉士法について理解し、その義務規定を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護ニーズの変化と、介護福祉士に求められる役割を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士養成カリキュラムの変遷と現在求められている介護福祉士像について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を支える職能団体や養成施設協会の働きについて理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会、介護福祉士養成施設協会等、関わる各種団体について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅰ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	501・502
担当教員	清水　公二	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

利用者理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解する。介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」を養う。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけてい きましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期試験からの振り返り、後期授業のオリエンテーションを通じ、苦手分野の把握をすることができる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・前期のレジュメ等の持参確認。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	前期試験の解答から、苦手な問題を中心に復習を行う		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFにおける生活機能と快苦因子の相互作用について理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICF、ICIDHについて、利用者の持つ強さ(ストレングス)について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念、リハビリテーションの実際		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解できる	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護予防の目的と考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムと介護予防について再認識し理解できている	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自助、互助、共助、公助の重なり合い		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	坂本　愛子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに、介護福祉士として勤務した。		

《授業科目における学習内容》

「介護を必要とする人の生活を支援する」という観点から、介護を受けて生活する人およびその生活について学ぶことができる。介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護を受けて生活する方のフォーマルおよびインフォーマルな支援や、地域連携について学びを深めることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本という科目名の通り、介護福祉士を目指す上での理念や役割などについての理解が必要です。専門職としての能力を養うため、理解できていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活においての構成や要素を理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	「生活」とは何かを示し、どのような特性をもっているのかを学び、「生活」についての基本を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を取り巻く状況について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士の誕生経緯や介護福祉士制度、また、社会福祉士及び介護福祉士法について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士及び介護福祉士法についての理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解し、介護福祉職の関わる高齢者・障害者の事例を学ぶ。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活ニーズや生活のしづらさ、その支援について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	私たち自身の生活を見直すことで、その人らしさや生活ニーズの多様性、生活のしづらさの理解や支援について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における専門職能団体の活動について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	専門職能団体の意義と目的を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護に携わる人が持つべき職業倫理や、プライバシーに配慮した介護などを学び、日本介護福祉士会倫理綱領について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	事例を用いたグループワークを行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを学ぶことができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法におけるサービス等の種類や、居宅サービス・施設サービスなどのフォーマルサービスを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法における、地域密着型サービス・地域支援事業・障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるフォーマルサービスについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。フォーマルサービスについての復習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるインフォーマルサービスを理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	フォーマルサービスとの関係性や、一般的に想定されるインフォーマルサービスについて理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解することができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的、ユニットケアについて理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域福祉に関わる組織や団体、担い手について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする方の生活やその支援方法を理解できる。	・教科書　中央法規　介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　水曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	坂本　愛子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに、介護福祉士として勤務した。		

《授業科目における学習内容》

介護現場での、利用者を取り巻く様々な形の連携を知り、関連職種や機関の特性なども学ぶことにより、チームケアを担う介護職になることができる。また、介護場面での事故及び感染症対策の具体的な手法を学ぶことができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規　新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。

《履修に当たっての留意点》

「介護の基本」で学ぶ様々な資格や役割、利用者との関係や職場のスタッフとのチームワークの重要性をしっかりと理解することが必要です。専門職としての能力を養うため、理解出来ていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携を理解することができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	多職種連携(チームアプローチ)の意義と目的を学ぶ。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	利用者を支援するさまざまな専門職について、基礎的な理解を深め、多職種連携のあり方を学び、チームアプローチの心構えを養う。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的について学び、地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。地域連携を進めるための、介護職の取るべき行動や考え方について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解することができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護の質の向上がリスクマネジメントに繋がることを理解する。また、リスクに強い環境づくりの理解のため、ユニットケア等の復習をする。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントに必要な要素を理解する。また、身体拘束について、緊急やむを得ない場合の対応や身体拘束がもたらす多くの弊害などについても学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントについて、事例を用いてグループワークを行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。また、利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症についての理解を深める。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	DVD鑑賞。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	生活の場での感染に関する正しい知識の必要性・利用者の特性を理解した感染対策について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護施設でみられる感染症の特性や対処方法について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解する。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護の特徴から、介護職自身の健康管理の必要性を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職に起こりやすいこころとからだの障害（疾病）を学び、心身障害（疾病）の予防と対策を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職の健康や安全問題について事業者の取り組むべきことを理解し、労働安全対策と安全衛生管理体制などを学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士として関わる多職種との連携や役割、介護職員自身の健康管理に必要な基礎知識と技術を身に付けることができる。	・教科書　中央法規　新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	コミュニケーション技術(理論)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　火曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	徳野　ゆみ	実務経験とその関連資格	介護老人保健施設に介護福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

利用者・家族との関係作りのための対応や声かけなど実践的なコミュニケーション能力を習得する。援助場面でのコミュニケーションの基盤となる共感や重要等の態度、バイステックの7原則等の概念について理解を深める。利用者の特性に応じたコミュニケーションの具体的な対応や留意点を理解することが出来る。チーム内の記録、報告、カンファレンスにおける留意点や効果的な方法を知ることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術

《授業外における学習方法》

復習として、普段から人と関わる際には授業で得た知識を実践し、体験を関連付けしておく。また、施設実習においても授業で得た知識や日頃の体験を活かし、さらに理解を深める。

《履修に当たっての留意点》

「コミュニケーション技術」は利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの意義と目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自己紹介、マズローの基本的欲求、コミュニケーションの展開過程を理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションが果たす役割や特徴、バイステックの7原則について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	話を聴く技法、受容と共感の大切さを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	傾聴のための技法、受容と共感の大切さを理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	傾聴・受容・共感についての理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	話を聴く態度、相づち、質問の技法を実践する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者の納得と同意を得る技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者とのコミュニケーションにおける「距離」とは何かを理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	言語コミュニケーションの機能を理解する。言葉以外を使った非言語・準言語コミュニケーションの役割を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	これまで学んだことの小テスト実施。さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害への理解を深める。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解を深める。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族とのコミュニケーションの重要性を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家族の気持ちの理解、家族との信頼関係の構築について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への相談・助言・調整の技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーション手順を理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーションの意義・目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーション技術の理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点の理解を深めることが出来る。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのあり方や重要性について考えをまとめることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて全15回の振り返りを実施する。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅱ(理論)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	秋元　祐希	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として4年間勤務。 デイサービスにて介護福祉士として3年間勤務。		

《授業科目における学習内容》

・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習し、知識を身につけることができる。
・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを学び、理解を深めることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常評価点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規　最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
中央法規　最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分の予習、復習(小テスト勉強)

《履修に当たっての留意点》

・個別性を理解し、相手の立場になって考える。
・どの介助でも利用者主体であることを理解する。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・生活支援について、基本を理解することができる ・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について学び理解を深めることができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション(授業での注意点等説明、他己紹介) ・生活支援の基本的な考え方について学習する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ICFの視点をもって利用者の全体像・個別性を知ることの大切さを理解することができる ・介護過程を重視し、根拠ある生活を理解することができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・生活支援のポイントについて学習する ・生活支援と介護過程について学習する ・ICFの視点に基づく生活支援について学習する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・生活支援におけるチームアプローチの重要性について理解することができる ・チームアプローチに関わる職種とその役割、連携の方法について理解し、考察ができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・生活支援とチームアプローチについて学習する ・その人らしい生活について(グループワーク)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立した移動のあり方について理解することができる ・ボディメカニクスを応用した介助方法について理解することができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・生活支援の基本的な考え方(小テスト) ・自立した移動について学習する ・ボディメカニクスの基本、重要性について学習する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・褥瘡について理解を深めることができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・ボディメカニクス(小テスト) ・褥瘡の症状、原因、予防法、後発部位について学習する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・安楽な体位について理解することができる ・体位変換の重要性について理解、知識を深めることができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・安楽な体位について学習する ・安楽な姿勢、体位を保持する介助の目的について学習する ・褥瘡の後発部位について（小テスト）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・安全、安楽な移動における福祉用具について理解することができる ・福祉用具の種類、使用方法について理解し、使用できるようになる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・安全、安楽な体位（小テスト） ・車椅子と杖、歩行器の役割、使用方法について学習する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・環境整備の重要性について理解し、その視点を身につけることができる	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・福祉用具（小テスト） ・居室（寝室）の環境について学習する ・居室の温度、湿度について学習する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者の生活における身じたくの意義と重要性について理解することができる ・身じたくに必要な介護技術の基本が理解でき、実践することができる ・身じたくに関する介護技術の根拠が理解できるようになる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・環境整備（小テスト） ・身じたくの意義と目的について学習する ・身じたくの介助について学習する（洗顔、洗髪、髭の手入れ）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・身じたくに必要な介護技術の基本が理解できる ・身じたくに関する介護技術の根拠が理解できる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・身じたくの介助について学習する（爪の手入れ、耳の清掃、化粧） ・利用者の状態に応じた整容の介助を学習する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・口腔ケアに関する介護技術の根拠を理解し、さらに必要な介護技術の基本が理解できるようになる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・身じたくについて（小テスト） ・口腔ケアの意義と効果、種類について学習する ・口腔ケアのポイントについて学習する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・口腔ケアに関する介護技術の根拠を理解し、さらに必要な介護技術の基本が理解できるようになる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・口腔ケア実施前、実施後のポイントについて学習する ・技師の保管と装着方法について学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・衣服の着脱に関する介護技術の根拠を学び、必要な介護技術の基本が理解することができる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・口腔ケアについて（小テスト） ・衣服の着脱の意義について学習する ・衣服の種類と衛生管理について学習する ・利用者の状態に応じた着脱介助について学習する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・前期に学んだ内容が身についている	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前期の内容まとめ、復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験に向けての対策ができるようになる	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	試験内容の発表、対策		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅱ(理論)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	501・502
担当教員	秋元　祐希	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として4年間勤務。 デイサービスにて介護福祉士として3年間勤務。		

《授業科目における学習内容》

・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを理解する。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常評価点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規　最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」
中央法規　「書いて覚える！国家試験合格ドリル」
中央法規　「介護福祉士国家試験　わかる！受かる！合格テキスト」

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分の予習、復習(小テスト勉強)

《履修に当たっての留意点》

・個別性を理解し、相手の立場になって考える。
・どの介助でも利用者主体であることを理解する。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・食事介助の意義と目的について理解できる。 ・自立に向けた食事の介護をするために介護福祉士がすべきことを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・食事介助の意義と目的について ・自立した食事のあり方、食事の一連の流れについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自立に向けた基本的な食事介助の技術を習得できる。 ・利用者の心身状態・状況に応じた適切な介助方法を身につけることができる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・自立に向けた食事の基本的な介護技術について学習する。 ・食事における福祉用具について学習する。 ・食事における誤嚥予防とチームアプローチについて学習する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・入浴、清潔の目的は何か、清潔保持がどのような影響と意義をもつのかを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・食事介助について(小テスト) ・入浴と清潔保持の意義と目的について学習する ・利用者を主体とした安心、安全、安楽な入浴について学習する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者を主体とした安心、安全、安楽な入浴における介護技術について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・入浴における介護技術について学習する(個浴、機械浴、シャワー浴)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者を主体とした安心、安全、安楽な清潔保持における介護技術について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・清潔保持における介護技術について(清拭、部分洗浄、部分浴)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・入浴、清潔保持における福祉用具について理解できる。 ・入浴、清潔保持にかかわる他職種の役割、必要性について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・入浴、清潔保持における福祉用具について学習する。 ・入浴、清潔保持における他職種との連携について学習する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・排泄介護の意義と目的について説明できる力を身につける。 ・自立した排泄の一連の流れについて理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・入浴、清潔保持について（小テスト） ・排泄介護の意義と目的について学習する。 ・自立した排泄について学習する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・利用者の心身の状況、状態に応じた適切な排泄方法を理解できる。 ・利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・排泄における自立に向けた介護技術について学習する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・排泄における介護技術と、福祉用具の使用方法を習得できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・排泄介助における福祉用具について学習する。 （ポータブルトイレ、尿気、差込便器、オムツ）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・高齢者に多い排泄機能障害について理解できる。 ・排泄における他職種との連携の必要性について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・高齢者に多い排泄機能障害について学習する。 ・排泄介護における、他職種との連携について学習する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・人間にとって休息、睡眠がどのような意味をもつのか理解できる。 ・日常生活における休息、睡眠の重要性について理解できる。 ・安眠を促すための基本的な支援方法を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・排泄の介護について（小テスト） ・休息、睡眠の意義と目的について学習する ・快適な睡眠の一連の流れについて学習する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・休息、睡眠における他職種との連携の重要性について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・休息、睡眠における他職種との連携について学習する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・終末期の介護の考え方と介護福祉職の役割について理解できる。 ・終末期における意思決定のあり方について理解できる。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	・終末期の介護の意義と介護の役割について学習する。 ・死後のケアについて学習する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期に学んだ内容が理解できている。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・終末期の介護について（小テスト） ・後期まとめ、試験対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・試験対策ができている。	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。後期試験に向けての勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	・試験対策（プリント）		

2019　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅱ(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 月曜1～4限	教室名	介護実習室
担当教員	松元 彩夏/秋元 祐希	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて5年間介護福祉士として勤務。/施設にて4年、リハビリデイサービスにて1年勤務後、特別養護老人ホームにて約2年介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習し、実践できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(10%)、参加度(20%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)、最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護技術の授業内容について理解できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材に目を通し、どのような内容の授業なのか把握する。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション・グループ分け		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法(ベッドメイキング等)を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材227ページから244ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境整備 シーツ交換 ボディメカニクス		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材87ページから112ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 体位交換(上方移動・下方移動・水平移動・仰臥位から側臥位(対面法・背面法)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解を深めることができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材112ページから130ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 体位交換(起き上がり・長座位・端座位・立位)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	就職フェアに参加し、職業理解を深めることができる。	就職フェア冊子	就職フェアの冊子に目を通し、話しを聴いてみたい施設について調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	就職フェア		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材131ページから168ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　ベッドと車椅子間の移動①		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法（ベッドメイキング等）を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材227ページから244ページまでを読み、ベッドメイキングの練習をする。
		各コマにおける授業予定	ベッドメイキング試験・ベッド臥床時の交換		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材131ページから168ページまでと174ページから186ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	車椅子での外出介護、杖歩行、視覚障害者体験		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材131ページから168ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法　ベッドと車椅子間の移動②		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の思いを確認した介護ができる。利用者の健康状態や状況を把握し、利用者にあった介護方法が選択できる。身じたくに必要な介護技術の基本が理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材47ページから64ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	着脱の介護　前開き・かぶり、ズボンの着脱法		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の思いを確認した介護ができる。利用者の健康状態や状況を把握し、利用者にあった介護方法が選択できる。身じたくに必要な介護技術の基本が理解できるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材47ページから64ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	着脱の介護　ゆかたの着脱法		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自立した食事のあり方について理解する。さらに自立した食事の一連の流れを理解し、自立に向けた食事の介護をするために介護福祉士がすべきことを理解し、考える事ができる。	最新　介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材74ページから101ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	食事介助　環境・身体の状況に応じた介助法　食事介助の実際（ベッド上、車椅子）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	学んできた技術の応用ができるようになる。	最新　介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例問題①		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	学んできた技術の応用ができるようになる。	最新　介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例問題②		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学んできた介助について振り返りを行い、理解の再確認を行い、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ、最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	前期の振り返り		

2019　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	生活支援技術Ⅱ(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 月曜1～4限	教室名	介護実習室
担 当 教 員	松元 彩夏/秋元 祐希	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて5年間介護福祉士として勤務。 /施設にて4年、リハビリデイサービスにて1年勤務後、特別養護老人ホームにて約2年介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題、参加度、試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)、最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材117ページから120ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介助 特殊浴槽		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材141ページから144ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介助 洗髪 ケリーパット		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつのかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力が身についている(知識と技術)	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材134ページから141ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	入浴介護 手浴・足浴		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が身についている。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材82ページから152ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移動介護、体位交換・安楽な体位		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できている。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 オムツ交換(紙オムツ)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（布オムツ）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材227ページから244ページまでを読み、ベッドメイキングの練習をする。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　ポータブルトイレ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材178ページから186ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　尿器・差込便器		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（紙オムツ）		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護　オムツ交換（紙オムツ）小テスト		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材136ページから152ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移動介護　車椅子		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	使用教材136ページから152ページと今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン（体温・血圧・脈拍・呼吸）移動介護　事例		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン（体温・血圧・脈拍・呼吸）移動介護　事例		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認でき、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認し、理解を深めることができる。	最新　介護福祉士養成講座6　介護技術Ⅰ、最新　介護福祉士養成講座7　介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

2019　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　火曜3・4限	教室名	介護実習室
担当教員	清水 公二・秋元 祐希	実務経験とその関連資格	・(清水)特別養護老人ホームにて介護福祉士として9年間勤務。 ・(秋元)特別養護老人ホーム、デイサービスにて介護福祉士として7年間勤務。		

《授業科目における学習内容》

・自立支援を重視し、事例に基づいて支援内容を考え実践できるようになる。
・グループで支援内容を考え、チームで取り組む力を身につけることができる。
・事例問題を繰り返し実施し、応用力が身につくようになる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験（70%）　出席評価点（20%）　平常評価点（10%）

《使用教材（教科書）及び参考図書》

中央法規出版　新・介護福祉要請講座「生活支援技術Ⅱ」
中央法規出版　実技試験のチェックポイント
国学評論社　わかる介護実技DVD　介護福祉士国試実技試験対策　第2版

《授業外における学習方法》

・教科書の指定部分、プリント（チェックシート）を確認し、介護技術の基本と応用を予習・復習しておく。

《履修に当たっての留意点》

・グループ力をつけられるよう、常にチームで協力をする。
・介護技術の基本を理解した上で、応用力を身につける。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	・生活支援技術Ⅲの授業内容について理解することができる。 ・環境整備（ベッドメイキング）が正しく行うことができる。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・オリエンテーション、グループ分け ・環境整備 ベッドメイキングの復習（グループの代表が発表）		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	・1年生で学んだ技術の基本が理解できている。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・基本的な介護の事例問題（グループで検討、実施）		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで一人一人が意見を出し合うことができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例15）をグループで検討する。 ・手順シートの作成、練習の実施。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで役割分担を行い、発表を実施することができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法を行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例15）の練習・発表の実施。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで協力して正しい介助方法が導き出せる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術の基本を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例11）をグループで検討する。 ・手順シートの作成、練習の実施。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例11）の練習、発表の実施。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで一人一人が意見を出し合うことができる。 ・グループで協力し、正しい介助方法が導き出せる。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術の基本を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例25）をグループで検討する。 ・手順シートの作成、練習の実施。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例25）の練習、発表の実施。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで一人一人が意見を出し合うことができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術の基本を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例8）をグループで検討する。 ・手順シートの作成、練習の実施。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例8）の練習、発表の実施。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで一人一人が意見を出し合うことができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	教科書の指定部分を読んでおく。1年生で学んだ介護技術の基本を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例18）をグループで検討する。 ・手順シートの作成、練習の実施。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	・グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。 ・事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	・国家試験問題（事例18）の練習、発表の実施。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	・前期で学んだ内容を理解し、実践することができる。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・前期のまとめ、試験についての説明を行う。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	・試験に向けての対策ができる。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・前期に実施した事例問題の復習。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	・試験に向けての対策ができる。	中央法規出版　新・介護福祉士要請講座「生活支援技術Ⅱ」実技試験のチェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	・試験に向けての練習の実施。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生活支援技術Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	介護実習室
担当教員	清水公二／秋元祐希	実務経験とその関連資格	清水:特別養護老人ホームにて介護福祉士として9年間勤務。 秋元:特別養護老人ホームにて介護福祉士として4年間勤務。 デイサービスにて介護福祉士として3年間勤務。		

《授業科目における学習内容》

・現場で実際に行われている応用の介護技術について、グループワーク・ビデオ鑑賞等を通して習得する。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%)　出席評価点(20%)　平常評価点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」

《授業外における学習方法》

・実習で学んだ現場での介護技術を復習しておく
・介護技術の応用について教科書等で予習しておく

《履修に当たっての留意点》

・必ずグループで協力して行う。提出物もグループの連帯責任とする。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	・実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習Ⅱ－②のなかで、学んだ現場での介護技術について個々に振り返る ・介助の良かったポイント、悪かったポイントを考える		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	・実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習で学んだ介護技術について、個々に考えたことをグループで話し合う。		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	・実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	・グループで話し合った内容をまとめ、発表に向けての準備を行う。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	・実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	・グループワークの内容を発表する。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	・実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	・グループワークの内容を発表する。(前回の続き)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく。
		各コマにおける授業予定	・スーパートランスについて学習する。(ビデオ鑑賞、実践)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく。
		各コマにおける授業予定	・椅子を使った移乗介助(一部介助、全介助)について学習する。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	・福祉用具を使用した移乗方法を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく。
		各コマにおける授業予定	・スライディングボードやスライディングシートを使用した移乗方法を学習する。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく。
		各コマにおける授業予定	・ビデオ鑑賞 ・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する。 (体育室にて)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	授業内容について教科書などで調べておく。
		各コマにおける授業予定	・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する。 (体育室にて)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	・医療的な知識・技術を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく。
		各コマにおける授業予定	・ストマの使い方、包帯の巻き方、服薬について学習する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	・AEDの使い方を身につけることができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく。
		各コマにおける授業予定	・AEDの使い方、使用時の注意点について学習する。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	・後期に学んだ応用の介護技術が身についている	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・後期に学んだ応用の介護技術の振り返りを行い、復習する。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・試験内容の発表、対策		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる	・中央法規　新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 ・レジュメ配布	後期に学んだ内容を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・試験内容練習		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　金曜　2限	教室名	501
担当教員	藤原孝之	実務経験とその関連資格	介護老人福祉施設にて介護福祉士として勤務。主業務は、日常生活介護と利用者の生活相談援助。その後、グループホームで勤務しユニットリーダーとして認知症高齢者の日常生活介護及び家族対応。		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程を展開する意味を理解することできる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護過程の概要を理解し、自分自身の生活課程の展開をワークシートに記入する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活支援技術で学んだ内容を介護過程と繋ぎ合わせる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活における目的と目標の意義を理解するためにグループ討議する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	アセスメントを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集→計画立案→実施→評価のサイクルを講義を通じて理解する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義でICFについての理解を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議しまとめる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議した内容を発表し学びを深める		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援(ケアプラン)を参考にアセスメントを解釈する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援(ケアプラン)を参考に支援の内容を解釈し方法を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(4)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	501
担当教員	藤原孝之	実務経験とその関連資格	介護老人福祉施設にて介護福祉士として勤務。主業務は、日常生活介護と利用者の生活相談援助。その後、グループホームで勤務しユニットリーダーとして認知症高齢者の日常生活介護及び家族対応。		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 実習日誌 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護実習Ⅱで受け持った利用者が介護現場でどのような介護過程が展開されていたか報告し共有する		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護実習Ⅱで受け持った利用者が介護現場でどのような介護過程が展開されていたか報告し共有する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護現場の介護過程の展開の報告を聞き感想をグループワークで深める		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での情報収集の方法や分析方法を振り返ることができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集用紙　2枚の振り返り　どのように収集したか　収集のポイントの共有　ICF反映した用紙への転記		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で実践した情報収集を基にICFを理解できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	ICFとは、ICFを反映した用紙への転記したことの振り返り		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で実践した情報収集を基にICFを理解できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習Ⅱで実施した情報収集で得た情報をICFの情報用紙に書き出してみる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で実践した情報収集を基にICFを理解できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前回の続き、実習Ⅱで実施した情報収集で得た情報をICFの情報用紙に書き出してみる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習で作成した情報収集用紙を使用しフェイスシートに記録する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	カンファレンスで情報共有すべき事項を考えまとめ報告内容の検討を行う		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習で作成した介護計画を元に生活課題は根拠に基づいているか個人で検討しその後グループワークで報告する。報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習で作成した介護計画を元に生活課題は根拠に基づいているか個人で検討しその後グループワークで報告する。報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の振り返りから介護過程の実践的展開を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習で作成した介護計画を元に生活課題は根拠に基づいているか個人で検討しその後グループワークで報告する。報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なアセスメントツールについて理解できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	一般的なアセスメントツールの説明と解説		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なアセスメントツールについて活用できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	一般的なアセスメントツールを使用して事例を元に記入してみる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なアセスメントツールについて活用できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	一般的なアセスメントツールを使用して事例を元に記入してみる		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例を通して介護計画のあり方を学ぶ		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例を通して介護計画を立案する		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を立案後、多職種連携について検討する		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を報告し報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を報告し報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	サービス提供計画の理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	サービス提供計画の事例を用いてサービスを提供するために必要な制度や仕組みの理解をする		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	サービス提供計画の理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	サービス提供計画に沿ってサービスを提供するだけでなく利用者のニーズをどのように反映するか理解する		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	入居施設での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	入居施設での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅支援事業所での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践に必要なことをまとめることができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前回のゲストスピーカーの体験談を元に介護過程の実践のために必要なことを検討する		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践するための計画を立案できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習計画用のワークシートを使い、介護計画の実践を立案し実施可能であるか検討し修正する		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	カンファレンスでのスーパービジョンの受け方と活かし方を学ぶ		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	評価からの修正と多職種との連携の方法を学ぶ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	チームアプローチの中で介護福祉士の役割を学ぶ		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護過程	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(4)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期　金曜　2限	教室名	501
担当教員	藤原孝之	実務経験とその関連資格	介護老人福祉施設にて介護福祉士として勤務。主業務は、日常生活介護と利用者の生活相談援助。その後、グループホームで勤務しユニットリーダーとして認知症高齢者の日常生活介護及び家族対応。		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座　介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程を展開する意味を理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護過程の概要を理解し、自分自身の生活課程の展開をワークシートに記入する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活支援技術で学んだ内容を介護過程と繋ぎ合わせる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活における目的と目標の意義を理解するためにグループ討議する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	アセスメントを理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集→計画立案→実施→評価のサイクルを講義を通じて理解する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義でICFについての理解を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議しまとめる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議した内容を発表し学びを深める		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援（ケアプラン）を参考にアセスメントを解釈する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解できるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援（ケアプラン）を参考に支援の内容を解釈し方法を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む　解説		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習報告会を通して学びを深めることができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。質問やコメントの応対をすることで学びを深める		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアマネジメントの全体像を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義を受けケアマネジメントの理念・目的や流れについて理解する		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアマネジメントと介護過程の関係を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義を受けケアプランと個別介護計画の関係性を学ぶ		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	人が死ぬということを多角的な視点で理解する		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	自らの死生観を向き合い他の学生と気持ちを共有する		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	DVDを視聴し高齢者が亡くなった後の事柄について理解する。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての専門性を介護過程を通して理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	個人でワークシートを使用し介護福祉士の専門性とは何か考えをまとめる		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての専門性を介護過程を通して理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前回の個人ワークシートを使用しグループワーク行い共有する		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	発達と老化の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　木曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	牧　雪枝	実務経験とその関連資格	病院にて臨床検査技師、臨床病理士として勤務。主業務は生理機能検査、病理学検査などを行っていた。		

《授業科目における学習内容》

人間の成長と成熟および発達の違いを理解し、発達理論における各段階の発達課題を説明することができる。
身体的・精神的・社会的機能の発達と老化との関連を理解し、様々な老化学説を述べることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。
授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

《履修に当たっての留意点》
国家試験の合格を目標とすると同時に、人の発達と老化に関した知識を習得し質の高い介護を提供できる福祉職を目指し頑張りましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生涯発達の段階について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	成長・発達の考え方について講義『発達の概念』について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境的要因の多様性について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	成長・発達の考え方について講義『遺伝的要因と環境的要因』を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキャモンの発達曲線、発達の臨界期について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	成長・発達の原則・法則について講義『発達の順序性と方向性』について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	成長・成熟に影響する環境的および遺伝的要因について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	成長・発達に影響する要因について講義『発達に影響する緒要因』を理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ピアジェ、エリクソン、バルテスの発達理論について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発達理論について講義『子どもの発達と教育の発展』について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ハヴィガーストによる発達段階と発達課題について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発達段階と発達課題について講義 『各発達段階の概要』について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習障害、注意欠陥多動性障害などについて説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発達障害者支援法について講義 『発達障害の症状および理解と対応』について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各発達段階に特徴的な疾病や障害について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	身体的機能の成長と発達について講義 『身体的な成長と発達および運動機能発達の特徴』について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ピアジェの認知発達理論について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	心理的機能の発達について講義 『言語の発達過程』を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着や道徳性について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会的機能の発達について講義 『社会性の発達』について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生物-心理-社会モデルからみた老年期について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期の定義について講義 『高齢者の定義』を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化学説について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老化について講義 『生理的老化の特徴』について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	エリクソン、ペックによる老年期の心理的葛藤について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期という発達段階について講義 『さまざまな発達理論における老年期』について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	フロイトの悲観過程、セクシャリティとその権利について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人格と尊厳、老いの価値について講義 『喪失体験とライフイベントとの関連』について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢化によって生じる老年期の変化について説明できる。	・教科書『介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期をめぐる今日的課題について講義 『各世代の高齢者が生きてきた時代背景』について理解する。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	発達と老化の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　木曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	七田つたえ	実務経験とその関連資格	看護専門学校で看護師・助産師として勤務。主には基礎看護学母性看護学担当し担任業務を行う。地域では養育支援業務を担い家庭訪問を行う。障害者のグループホームにおいて日常生活支援業務を行う。		

《授業科目における学習内容》

ヒトは生まれたら死ぬ。人の一生には各発達段階ごとに直面する課題があることを知る。学習の中心は老年期についてであり身体的には衰えの変化を、心理社会的には喪失の過程について学ぶ。老化がもたらす高齢者に多い症状と、罹患しやすい疾患の特徴を医学的に理解することは、介護実践に必要な判断材料の一つとして大切だと認知する。これらを学び、人の一生を通して価値観や人生観に触れ、介護者としての職業観を養うことができる。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%　学習状況(ノートのまとめ、配布資料の整理管理、テキストの活用の提出):30%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキスト:中央法規　発達と老化の理解

《授業外における学習方法》

授業内で関連する国家試験問題を配布する。授業まとめとして、国家試験対策としても取組むこと。
科目終了試験にも出題の予定なので自己学習すること。

《履修に当たっての留意点》

老化や疾患を医学的に理解することで高齢者の生活への影響を捉えることが出来る。さらに必要な介護を考えることが出来る。難しい医学的な用語も多いので自己学習も大切である。講義中心に行うが、学習しやすいように事例も取り入れるので理解を深めてほしい。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化を医学的に学ぶことが必要だと述べることができる。	・テキスト ・配布資料	教科書を見ておくこと
		各コマにおける授業予定	後期で学ぶ概要についての講義。(老化の特徴、高齢者に多い症状・疾患など)医学的知識は科学的根拠となることを理解する。(正常を知らなければ異常は判断できない)また、老化と疾患の境界は曖昧であることも理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の症状・疾患の特徴の具体例を説明できる。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	一般的な高齢者の身体的特徴の講義 発達課題や社会的影響も含めた疾患の特徴を理解する。 フォーマル・インフォーマル支援には何があるかを理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病について説明できる。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	習慣→生活習慣病→三大死因の関連を講義 要介護状態の原因となる疾患を理解できる。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管疾患とがんを医学的に説明でき、介護の必要性を説明できる。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳血管疾患についての講義　種類・原因・症状・後遺症について理解する。 がんについての講義 原因、免疫との関係、順位、大腸がんと人工肛門について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	心筋梗塞と狭心症のちがいを述べることが出来る。 高血圧の基準を述べることが出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	心疾患についての講義 心不全の原因である虚血性心疾患や不整脈、高血圧について理解する。 老化による循環器の機能の変化を理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の食事療法と低血糖症状、三大合併症を述べることが出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	糖尿病についての講義 原因、型、合併症、食事・運動・薬物療法について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い骨・関節系の疾患を具体的に説明が出来る。筋・骨・関節の機能の変化を説明出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	骨・関節系の疾患についての講義 骨粗鬆症、三大骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、後縦靭帯骨化症の特徴と生活上の留意点を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い眼・耳の疾患について具体的に説明が出来る。老化による視覚・聴覚の機能低下を説明出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	眼・耳の疾患についての講義 白内障、緑内障、加齢性難聴の特徴と生活上の留意点を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い皮膚の疾患を具体的に説明出来る。老化による皮膚の変化を説明出来る	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	皮膚の疾患についての講義 皮膚掻痒症、湿疹、白癬・カンジダ症、疥癬の特徴と生活上の留意点を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い呼吸器系の疾患を具体的に説明出来る。 老化による呼吸機能の変化を説明出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の疾患についての講義 誤嚥性肺炎、COPD、肺結核の特徴と生活上の留意点を理解する。　呼吸不全を改善するための酸素療法を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い消化器系の疾患を説明出来る。老化による咀嚼・嚥下機能の変化を説明出来る	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器系の疾患についての講義 逆流性食道炎、誤嚥、う歯・歯周疾患の特徴と生活上の留意点を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い泌尿器系の疾患を説明出来る。老化による泌尿器系の変化を説明出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器系の疾患を講義 尿失禁の分類、慢性腎不全の特徴と生活上の留意点を理解する。 慢性腎不全の治療として透析療法を理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い脳・神経系の疾患を説明出来る。 老化による知的機能の変化を説明出来る。	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳・神経系の疾患を講義 パーキンソン病の特徴と生活上の留意点を理解する。 記憶機能の変化と認知機能の変化を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に多い精神疾患を説明出来る	・テキスト ・配布資料	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	精神疾患についての講義 老年期うつ病、統合失調症の特徴と生活上の留意点を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に起こりやすい感染症を説明出来る	・テキスト ・これまでの配布資料 ・ノート提出	・配布資料の整理 ・ノートのまとめ ・関連する国家試験問題を実地しておくこと
		各コマにおける授業予定	感染症についての講義 感染症とは、感染性胃腸炎、インフルエンザの特徴と生活上の留意点　体温維持機能の変化や熱中症と感染症の予防が出来る。		

2019　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	認知症の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	501・502
担当教員	松元 彩夏	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて5年間介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得できる。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)レポート課題、参加度(10%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座13　認知症の理解(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の全体像をとらえる。認知症の特徴を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから10ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症とは何か		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造機能と症状の関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材12ページから18ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	脳のしくみ①		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症と区別するべき状態を理解する。老化にともなう脳の変化を知り、認知症との関連を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材18ページから23ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	脳のしくみ②		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	不安・喪失感を抱く理由を理解する。視点取得という認知機能をフル活用したケアについて理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材25ページから28ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人の心理		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから35ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	中核症状の理解①		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから39ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	中核症状の理解②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の生活障害の重要性を理解する。IADL、ADL、参加（家庭内と社会）の障害を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材40ページから45ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活障害の理解		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDの定義と医学モデルであることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから54ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDのさまざまな背景要因を理解する。個々のBPSDの概要を知り、理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから60ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の診断要件を理解する。認知機能と重症度の評価法を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材62ページから70ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の診断と重症度		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから78ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	前頭側頭型認知症や治療可能な認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解する。原因疾患により症状や経過も異なることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから85ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を理解する。BPSDに対して用いられる薬の作用・副作用を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材87ページから91ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の治療薬		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症予防とは発症・進行を遅らせることであると学び、さまざまな危険因子・保護因子を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材93ページから96ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の予防		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ内容について理解ができているか再確認できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから97ページまでの内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験対策・まとめ		

2019　年度 授業計画(シラバス)

学　科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	認知症の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水曜2・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松元 彩夏	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームにて5年間介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

認知症の原因となるさまざまな疾患、認知症の種類と症状の特徴、治療と検査、認知症の高齢者と家族が日常生活を送るうえでの心身状態と支援など、基本的な知識を確実に理解できるようになる。認知症施策推進総合戦略(オレンジプラン)について、具体的な施策の内容を把握できる。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(10%)、参加度(20%)、試験(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

新 介護福祉士養成講座12 認知症の理解(中央法規)

《授業外における学習方法》

指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状についての理解ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座 12認知症の理解	前期で使用した教科書の内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	前期の復習(認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。	DVD「明日の記憶」	使用教材112ページから120ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」をみて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。	DVD「明日の記憶」	使用教材112ページから120ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」をみて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の心理状態を学び、理解できるようになる。	新・介護福祉士養成講座 12認知症の理解	使用教材90ページから120ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人の心理的理解		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知機能の変化が、本人の生活にどのような影響をおよぼすのかを理解できるようになる。	新・介護福祉士養成講座 12認知症の理解	使用教材124ページから130ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知機能の変化が生活に及ぼす影響について。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の行動と環境との関係が理解できるようになる	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材132ページから1142ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	環境の力について。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	若年性認知症の人を取り巻く状況を理解する。若年性認知症の人の生活と必要な支援について学び理解できるようになる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材159ページから163ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	若年性認知症の人の生活の理解と支援		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化を学ぶ。さらに認知症の進行に応じた介護を学び、知識を習得できる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材197ページから223ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の進行に応じた介護（初期、中期、後期、終末期）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人が地域で暮らすために必要な資源をとらえなおすことができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材232ページから240ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	地域におけるサポート体制		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	多職種が協働して認知症の人を支える意義を学ぶ。チームアプローチにおける介護職の役割を理解することができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材243ページから248ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	チームアプローチ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	おかしいなと感じたときの本人の気持ちを知り、家族とのかかわりを考える。介護職として気づいたときの対応方法を身につけることができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材252ページから258ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護者自身の体験		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族介護者の介護の大変さを知り、レスパイトの重要性を学び、理解することができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材260ページから265ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	家族へのレスパイトケア		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の利用者を支えていくパートナーであることを理解することができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材267ページから270ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	家族へのエンパワメント		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険以前の認知症対策の展開と内容を理解する。介護保険のなかで認知症対策や、制度改正における認知症対策の重点化に理解を深めることができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材278ページから284ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症対策と介護保険制度①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人の介護保険利用の現状を理解することができる。	新・介護福祉士養成講座　12認知症の理解	使用教材284ページから299ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症対策と介護保険制度②、その他の施策		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	障害の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　火曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	岡本　貴弥	実務経験とその関連資格	精神科病院、障害福祉サービス等事業所に精神保健福祉士として勤務。サービス利用者からの相談、各種福祉サービス連絡調整など行なっていた。		

《授業科目における学習内容》

テキストとレジュメを用いて、障害の理解や制度、そして障害者の支援の方法について学ぶことで、知識を身につけ視野を深めることができる。
授業では、初めの時間に前回の授業の振り返りをし、最後の時間でその日のまとめの問題をすることで理解を深めることができる。また、実習の目的や取り組む姿勢についても触れ、実践につなげることができるようになる。

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%、授業態度10%、出席20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解　(中央法規出版)

《授業外における学習方法》

テキストを熟読し授業中にわからなかったことを残さないように学習を継続すること。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として関わる対象は高齢者だけでないことをしっかりと認識し、障害の理解をすると共に高齢者支援にも汎化させられるよう学習してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFとICIDHについて説明できるようになる①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ICFとICIDHの概要について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFとICIDHについて説明できるようになる②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ICFとICIDHについて変更のポイントや実践への展開について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本における障害者の各種定義について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	日本における障害者の位置づけと定義について法的な理解を進める		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	エンパワメント、ストレングス、国際障害者年、障害者権利条約、アド簿がシーについて理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法、障害者虐待防止法について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	成年後見制度について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉制度と介護保険制度について説明できるようになる①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護保険法について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉制度と介護保険制度について説明できるようになる②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害福祉制度と介護保険制度の違いについて理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害がある人の心理について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害の受容や適応機制について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肢体不自由（運動機能障害）について説明でるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	身体障害について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚障害について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	視覚障害について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚・言語障害について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	聴覚・言語障害について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	重複障害について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	重複障害について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	重症心身障害について説明できるようになる	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	重症心身障害について理解する。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	障害の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　火曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	松山　剛	実務経験とその関連資格	精神科病院に精神保健福祉士として勤務、医療福祉相談室や精神科デイケアで支援に従事した。そのほか、地域活動支援センターでの勤務、相談支援専門員としての実務経験あり。		

《授業科目における学習内容》

前期に学習した障害の概念、障害福祉の基本理念を踏まえたうえで、各論としてそれぞれの障害の特性と支援方法について学び、理解を深めることができる。
加えて、地域でのサポート、チームアプローチ、家族支援などについても学習し、広い視野を持てるようになる。

《成績評価の方法と基準》

出席点20%、平常点10%、期末テスト70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

介護福祉士養成講座編集委員会編集 『障害の理解』 中央法規出版　2019年3月31日発行

《授業外における学習方法》

次回授業における教科書の当該箇所を予め明示するので、予習において一読してくることを求める。

《履修に当たっての留意点》

テキストを中心に授業を進めます。
障害は、他人事ではなく、自身にも関連した社会全体の問題であるということ認識して、授業に臨んでください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障害の特性について説明することができるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	知的障害の特性について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障害者の支援とその留意点を説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	知的障害者の支援や、制度、サービスを理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害の特性について説明することができるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	精神障害の特性について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害者の支援とその留意点を説明できるようになる理解する。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	精神障害者の支援や、制度、サービスを理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の特性について理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害者の支援と留意点について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害者の支援、制度やサービスについて説明できるようになる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	発達障害の特性について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達障害者の支援、制度やサービスについて説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	発達障害者の支援、制度やサービスについて理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	難病の定義や、基礎的知識を理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	難病の定義や、基礎的知識を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	難病の特性に応じた支援について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	代表的な難病の特性に応じた支援について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	内部障害の特性や基礎知識について理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	内部障害の特性や基礎知識について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内部障害の特性に応じた支援について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	内部障害の特性に応じた支援について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域のサポート体制について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	地域のポート体制について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	チープアプローチについて説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	チームアプローチのあり方や他職種連携について学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への支援方法について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	家族への支援方法について学ぶ。		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期　水曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。主業務として、身体介助や生活介助を行っていた。その後、保健師・看護師の資格を取得し、現在大阪府内の病院に看護師として勤務。		

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠をもって生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ(中央法規)
参考書:からだのしくみ事典(成美堂出版)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術など他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	こころとかだらどのしくみの講義内容について理解することができる。身体の名称を理解し、知識として身につけることができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ(中央法規)　・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション　身体部位の名称		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間のこころとからだの関係性について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	身体の名称小テスト①　こころとからだの関係性について理解する。 心身の調和　生命に維持と恒常性のしくみ　細胞・遺伝　身体部位の名称		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系・末梢神経系について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	身体の名称小テスト②　からだのしくみについて理解する。 脳・神経		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の構造や生理的作用について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	脳・神経小テスト①　からだのしくみについて理解する。 骨・筋肉		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節・骨格筋の名称や種類、働きについて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト①　からだのしくみについて理解する 骨・筋肉		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト②　からだのしくみについて理解する。 感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の名称や肺の構造、呼吸のしくみについて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	感覚器小テスト　からだのしくみについて理解する。 呼吸器系		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器管について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系小テスト　　からだのしくみについて理解する。 消化器系(消化管・消化腺)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器腺について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	消化器小テスト①　からだのしくみについて理解する。 消化器系(消化管・消化腺)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の分泌・排泄に関する臓器の解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	消化器小テスト②　からだのしくみについて理解する。 泌尿器(腎臓・尿路)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器についての解剖や生理的機能ついて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	泌尿器小テスト　からだのしくみについて理解する。 生殖器		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌(ホルモン)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生殖器小テスト　からだのしくみについて理解する。 内分泌		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の解剖や大循環・小循環のメイカニズムについて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	内分泌小テスト　からだのしくみについて理解する。 循環器		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・体液・リンパについて解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	循環器小テスト　からだのしくみについて理解する。 血液・体液・リンパ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活支援のために必要な、人間のからだの解剖や生理的機能、からだのメカニズムについて理解を深めることができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	血液・体液・リンパ小テスト 前期講義の振り返り		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　　科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	こころとからだのしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 水曜1・2限	教室名	501・502
担 当 教 員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。主業務として、身体介護や生活介助を行っていた。その後、保健師・看護師の資格を取得し、現在大阪府内の病院にて看護師として勤務。			

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)
からだのしくみ事典(成美堂出版)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り①		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り②		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人が移動する必要性や効果について理解することができる 基本的な姿勢について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節　移動のしくみ①		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨・筋肉の解剖生理を振り返り、移動するためのからだのしくみを理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節　移動のしくみ②		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動能力低下となる要因について学ぶ、理解することができる (骨折・廃用症候群・褥瘡)	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が移動に及ぼす影響		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動能力を保つための留意点や、移動能力の低下が生じた際の対応方法について学び、理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応（グループワーク）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	身じたくをする必要性や効果について理解することができる　身じたくに関連するからだのしくみについて理解することができる（顔面・眼・耳・鼻）	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節　身じたくのしくみ①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	身じたくに関連するからだのしくみについて理解することができる（爪・毛髪・口腔・歯・舌）	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第3章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節　身じたくのしくみ②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う機能低下について学ぶことができる 身じたくを整えることを妨げる要因について理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	身じたくのなかで気づくことのできる心身の変化や機能低下を把握するための観察事項を理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応（グループワーク）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間に必要不可欠な栄養素とそのはたらきについて理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節　食事のしくみ①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食・嚥下に関わる解剖生理を理解することができる 食事の種類について学ぶことができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節　食事のしくみ②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢や疾病による心身の機能低下が食事にどのような影響を及ぼすか理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事での必要な観察事項について理解することができる 食事における緊急性を伴う異常について学び、医療職との連携の重要性について理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動・身じたく・食事に関連したこころとからだのしくみについて振り返りを行い、知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年後期授業まとめ		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期　火曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。主業務として、身体介助や生活介助を行っていた。その後、保健師・看護師の資格を取得し、現在大阪府内の病院に看護師として勤務。			

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠をもって生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ(中央法規)　参考書:からだのしくみ事典(成美堂出版)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術など他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の講義内容を振り返り、身じたく・移動・食事に関連したしくみについて知識を深め、理解できるようになる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1年後期講義振り返り(身じたく・移動・食事)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の講義内容を振り返り、身じたく・移動・食事に関連したしくみについて知識を深め、理解できるようになる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1年後期講義振り返り　確認テスト(身じたく・移動・食事)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の意義と効果について理解することができる。汚れが皮膚に及ぼす影響と清潔保持の必要性について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章　入浴・清潔保持に関連したしくみ 第1節　入浴・清潔保持のしくみについての講義		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	心身機能の低下が及ぼす清潔保持への影響について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章　入浴・清潔保持に関連したしくみ 第2節　心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響についての講義		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔保持の前に確認する内容や、清潔保持の機会に確認できる心身の状態について理解し、述べることができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第6章　入浴・清潔保持に関連したしくみ 第3節　変化の気づきと対応についての講義　グループワーク		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器の解剖生理について振り返りを行い、排泄に必要な行為、排尿のしくみについて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したしくみ 第1節　排泄のしくみについての講義		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事から排泄までの流れを再確認し、排便のしくみについて理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したしくみ 第1節　排泄のしくみについての講義　グループワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄障害の種類と特徴を理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したしくみ 第2節　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響についての講義　グループワーク		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄の観察方法とポンイトを理解し、排泄状態の観察・記録・報告の重要性を学び、理解できるようになる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第7章　排泄に関連したしくみ 第3節　変化の気づきと対応についての講義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠を引き起こすしくみについて学び、良質な睡眠のための環境条件や生活習慣について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第8章　睡眠に関連したしくみ 第1節　睡眠のしくみについての講義		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢による睡眠に及ぼす影響について理解できる 睡眠障害の種類と特徴について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第8章　睡眠に関連したしくみ 第2節　心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響についての講義　グループワーク		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠状態の観察ポイント、不眠・過眠への対応について理解することができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第8章　睡眠に関連したしくみ 第3節　変化の気づきと対応　グループワーク		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期に関する基礎知識や死の捉え方について学ぶことができる。尊厳死について自身の考えを述べることができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第9章　死にゆく人に関連したしくみ 第1節　死を理解する　グループワーク		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期から死までの身体機能の変化を理解し、状況に合わせた対応について学び、理解できるようになる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第9章　死にゆく人に関連したしくみ 第2節　終末期から「死」までの変化と特徴		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期講義で学んだ内容を振り返り、生活活動別に人の生活を支援する方法を根拠を持って述べることができる	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ　・配布資料　　・からだのしくみ事典	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・授業終了時に、提示する課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期講義まとめ		

2019　年度 授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期　火曜1・2限	教室名	401・402
担当教員	武部　奈緒子	実務経験とその関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。主業務として、身体介護や生活介助を行っていた。その後、保健師・看護師の資格を取得し、現在大阪府内の病院にて看護師として勤務。			

《授業科目における学習内容》

からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規)
からだのしくみ事典(成美堂出版)

《授業外における学習方法》

授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	死に対する心の変化について理解し、死にゆく人とその家族の支援について学ぶことができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	第9章　死にゆく人に関連したしくみ 第3節　「死」に対するこころの理解		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期に想定される医療ニーズの高い状態に対して、介護職としての適切なケアと他職種との連携について理解することができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	第9章　死にゆく人に関連したしくみ 第4節　医療職との連携ポイント		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔保持、排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみについて振り返りを行い、知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	2年前期の講義振り返り①		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔保持、排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみについて振り返りを行い、知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	2年前期の講義振り返り②		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	身じたくの必要性について振り返り、機能低下が及ぼす影響とそれに対する対応について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ(中央法規) ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	身じたくに関連したしくみ振り返り		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	移動の必要性について振り返り、機能低下が及ぼす影響とそれに対する対応について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	移動に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間に必要不可欠な栄養素について振り返り、食事動作に影響する要因、緊急性を伴う異常に対する対応について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	食事に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴・清潔保持の必要性について振り返り、機能低下が及ぼす影響とそれに対する対応について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄行為について振り返り、機能低下が及ぼす影響とそれに対する対応について知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	排泄に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠のしくみを振り返り、質のよい睡眠をとるための支援や睡眠に問題がある際の対応について理解を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	睡眠に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期から死に至るまでの心身の機能変化について振り返りを行い、死にゆく人とその家族の支援について理解を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみ振り返り		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	からだのしくみ振り返り		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	国家試験対策①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	国家試験対策②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の心理や人体の構造・機能および、介護サービスの提供における安全への留意点について根拠をもって述べることができる	・教科書　最新介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ（中央法規） ・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと　・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	こころとからだのしくみ総まとめ		

2019　年度　授業計画（シラバス）　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみ(応用)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期　月曜2限	教室名	501・502
担当教員	西本　麻衣	実務経験とその関連資格	福祉医療領域にて、障がい者などの支援として実務、相談業務の経験を経て、児童支援に従事。臨床心理士、公認心理師資格		

《授業科目における学習内容》

心理学的研究の諸理論を紹介し、心の働きについて理解する。心の構造と働きを、ニューロサイエンスの諸研究結果を通じて理解する。学習心理学を通じて学習の過程と種類、認知について理解し、精神医学的視点から精神障害の分類と症状、精神分析学的視点から、精神障がいの原因とメカニズムについて理解する。カウンセリングの基礎知識を身につけることができる。

《成績評価の方法と基準》

定期テスト70%、授業参加30%。テストは知識量を問うだけでなく、知識に基づいて考え論述する力を問います。

《使用教材（教科書）及び参考図書》

こころとからだのしくみ

《授業外における学習方法》

教科書だけではなく、授業で勧める文献・資料から自発的、積極的に学ぶ姿勢を期待しています。

《履修に当たっての留意点》

形の無い心について、生理学的、心理学的、社会学的側面からとらえる視点を養いましょう。私たちの日々の生活や人生の質・意味について考えるスタートとしてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	形の無いこころは脳の機能として理解できる事を学ぶ。感覚、感情、認知、行動という一連の脳の機能による出入力とその結果を理解できる。	テキスト	自分の心と向き合うことから心の理解を始めましょう。授業で学ぶ心の観察ポイントに沿って自分のこころにと対話しましょう。
		各コマにおける授業予定	「こころ」について考える。心のしくみ「ニューロサイエンス」		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人の心は脳の機能だけでは理解できないことを知り、人との関わりの中で生涯にわたり生じる人格の発達的変化について考察できる。	テキスト	神谷美恵子著「こころの旅」はエリクソンの理論を学ぶ上での名著です。手に取ってみてください。
		各コマにおける授業予定	ライフステージ、人格の発達		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	他者との関わりを通じて人の心は成長することを学ぶ。カウンセリングの基本的考え方や目的を理解できるようになる。	テキスト	カウンセリングは言葉を使って語り合う家庭にとどまりません。授業で学んだ非言語コミュニケーションを日常場面で観察、実施してみよう。
		各コマにおける授業予定	カウンセリングの歴史、カウンセラーの基本的態度		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	対話を通じて生じる相互信頼関係「ラポール」が築かれる過程とその重要性を理解できる。	テキスト	映画「グッド・ウィル・ハンティング」からラポールを学びましょう。
		各コマにおける授業予定	ラポール		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	福祉のあらゆる場面において不可欠な対人援助技術である、カウンセリングの基礎的技法を身につけることができる。	テキスト	傾聴技法の技能を高めるためには、日々の実践が欠かせません。授業で学んだ傾聴技法を日常の対人関係を通じて実施しましょう。
		各コマにおける授業予定	カウンセリングの基礎的技法		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ロジャース派はどのように人の心を捉え心理療法に発展させたか、その考えに基づいた代表的な傾聴技法を理解できる。	テキスト	授業で学ぶ用語を中心に、教科書で予習、復習してください。
		各コマにおける授業予定	クライエント中心療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	近代心理学の父とも言われるフロイト派を学びます。無意識、心の構造、適応機制など理論の核となる考え方を理解できるようになる。	テキスト	適応機制は教科書で再度確認し、かつ日常生活を通じて実体験としての適応機制をいくつも見つけてみましょう。
		各コマにおける授業予定	精神分析理論、適応機制		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	心を客観的に観察できる「学習」と「行動」の観点から捉え、心理学を行動の科学とした基礎研究と臨床との関連を理解できる。	テキスト	学習理論は臨床場面での応用が豊富です。授業で学んだ応用的利用(治療)を一つ選んで調べてみましょう。
		各コマにおける授業予定	学習理論		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「統合失調症」「うつ病」を中心に精神障害とその治療について理解できる。	テキスト	「統合失調症」と「うつ病(気分障害)」の症状をテキストを参考に確認しましょう。映画「ビューティフルマインド」を観ましょう。
		各コマにおける授業予定	精神障害1「内因性」		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の体としての変調が精神に及ぼす影響について考え、心と体の密接な関係を理解できる。	テキスト	「外因性」と分類される精神障がいをテキストを参考に確認しましょう。
		各コマにおける授業予定	精神障害2「外因性」		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレスや不安など私たちの日常的な経験が時に心の変調を引き起こします。精神障害を身近な疾患としてその症状と対応を学び、理解できるようになる。	テキスト	ストレスや日常生活を通じた経験が引き金となる精神障がいの疾病とその症状を最低3つはまとめましょう。
		各コマにおける授業予定	精神障害3「心因性」		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理テストとしてお馴染みの心理アセスメントの種類、目的と効果について正しい知識を身につけることができる。	テキスト	テキストを参考に心理アセスメントを実施の目的別に分類しまとめましょう。
		各コマにおける授業予定	心理アセスメント		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心の機能としての感情経験や認知過程をニューロサイエンスの視点、自己決定や行動との関連から学び理解できるようになる。	テキスト	授業で紹介する認知機能のトレーニングに挑戦しましょう。
		各コマにおける授業予定	感情と認知		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生き物」と考えるマズローの欲求5段階説を中心に欲求と行動との関連を考察できる。	テキスト	マズローの欲求各段階を自分の経験から具体的に振り返りましょう。
		各コマにおける授業予定	人間の欲求		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の中核症状は記憶障害です。記憶の種類と仕組みについて正しい知識を身につけることができる。	テキスト	記憶のメカニズムや分類を復習し、認知症の方が活かせる記憶の力を具体的支援に活用している臨床的アプローチを調べてみましょう、
		各コマにおける授業予定	記憶のしくみ		

2019　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	こころとからだのしくみ(応用)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期　月曜2限	教室名	402
担当教員	藤村　泰王	実務経験とその関連資格	精神科・心療内科等で精神保健福祉士として勤務。業務として面談、カウンセリングを行う。		

《授業科目における学習内容》

カウンセリング理論や技術を学習し、知識を身につけるとともに、カウンセリングマインドを身につけることで対人援助に関する基本姿勢を身につけることができる

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%・出席点20%・授業態度10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング

《授業外における学習方法》

授業中の板書を再学習し、教科書の該当箇所を熟読し復習を行なう。予習として、教科書の熟読を行なう。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士は身体介護等の介護を行う際に、利用者が安心して介護が任せられるよう信頼関係を築く必要がある。信頼関係を構築するためのカウンセリング技術やカウンセリングマインドを身に付けましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期を授業通しての学習内容と検定試験の内容を確認し、自分の苦手部分・学習不足な点を把握することができる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの定義と歴史について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセリングの定義、及び、歴史について		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセラーの基本的態度について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセラーの基本的態度について		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセラーの倫理義務とカウンセリングの流れについて説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセラーの倫理義務とカウンセリングの流れについて		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	「内因」の精神疾患について疾患と治療法を説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	精神疾患についての知識と治療法について		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「外因」の精神疾患について疾患と治療を説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	精神疾患についての知識と治療法について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「心因」の精神疾患について疾患と治療法を説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	精神疾患についての知識と治療法について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの精神疾患と治療法について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	精神疾患についての知識と治療法について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語的なカウンセリング技法について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセリング技法について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	非言語的なカウンセリング技術について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセリング技法について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なカウンセリング理論を説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセリング技法について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なカウンセリング理論を説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カウンセリング技法について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理アセスメントの必要性とアセスメントを行なう方法について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	心理アセスメントについて		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「知能検査」「発達検査」について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	心理検査について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	「人格検査」について説明できるようになる	教科書:「医療」「福祉」「保育」のカウンセリング	前回の復習と教科書を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	心理検査について		